

579

CA 19-9測定値乖離の原因解析

藤原拓樹（大阪府済生会中津病院・検査技術科）

CA 19-9測定キットにおいて、セントコア社のNS 19-9抗体とバイオミラCA 19-9キットのB 25・10抗体ではバイオミラCA 19-9キットの方が有意に高値を示す測定値間の乖離が見られたので、電気泳動法、double determinant assayで乖離の原因分析を行なった。

5%アクリルアミドゲルを用いるSDS-PAGE法(Coomassie染色)で、3社標準液CA 19-9抗原の分子量を測定すると、それぞれ240KD付近に泳動されることより抗原は同一と考えられる。同様に乖離した検体では240KD付近と430KD付近に二種類のバンドが確認できた。さらにdouble determinant assayではバイオミラ法では46.5U/ml、セントコア法およびアイソトープ標識抗体組替えの2法では平均9.2U/mlと有意な測定値差がでた。つぎに抗体の反応性を見るため一次抗体にNS 19-9抗体とB 25・10抗体を、二次抗体に抗マウスIgG(H+L)：ELISA法を用いウェスタンプロット法を行なったところ、分子量240KDのCA 19-9では両方の抗体とも反応するが分子量430KDのCA 19-9はB 25・10抗体としか反応性を示さないことがわかった。